

ISO 39001 「道路交通安全 (RTS) マネジメントシステム」

1. 規格の概要

現在、世界中の交通事故により、年間 130 万人以上が死亡し、2 千万人～5 千万人が負傷し、増加傾向にあり、交通事故は、社会、経済、健康に対して極めて深刻な影響を及ぼしている。この規格は、死亡者と重傷者を減らし最終的に絶滅することに向けての活動を行うにあたり、これを効果的に推進し管理するためのツールを提供するものである。

日本では、「独立行政法人 自動車事故対策機構」が審議委員会事務局として本規格の成立を推進した。この中で道路運送法による「運輸安全マネジメント」制度との整合性についても配慮された。

本規格は 2012 年 10 月 1 日に発行された。現在入手できるのは英文のみであるが、近々、日本語版の発行が予定されている。

2. 規格の特徴

(1) 規格全体が PDCA で構成されている。

Plan	4. 組織の状況（組織の状況の把握、利害関係者のニーズと期待等） 5. リーダーシップ（TOP の役割、RTS 方針、役割・責任・権限等） 6. 計画（リスクと機会への取組、RTS パフォーマンスファクター等）
Do	7. 支援（資源、力量、文書管理等） 8. 運用（運用管理、緊急事態対応等）
Check	9. パフォーマンス評価（監視・測定、事故調査、内部監査、MR 等）
Act	10. 改善（不適合と是正処置、継続的改善）

(2) マネジメントシステム規格の制改定に適用される「共通テキスト」が採用されている。

共通テキストは ISO9001 と ISO14001 の次期改定でも採用されるため、今後は統合マネジメントシステムを構成し易くなる。

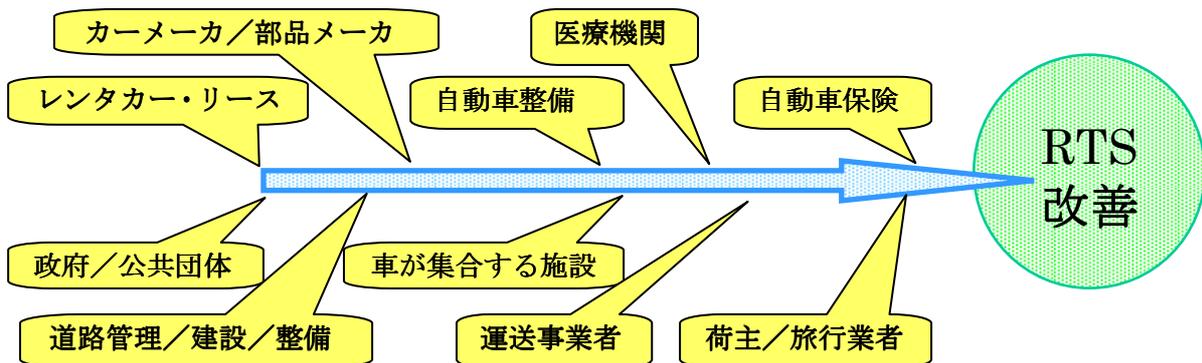
(3) 実施項目の検討に有用な「RTS パフォーマンスファクター」が提示されており、計画時点での広い視点が確保される。

(4) RTS 推進に必須である「緊急事態対応」、及び「インシデントを含めた交通事故調査」が織り込まれている。

(5) ISO39001 の要求事項は、全体として「運輸安全マネジメント」制度よりも広範囲であるが、十分に両立する内容となっている。

3. 適用対象組織

RTS に携わるあらゆる組織に適用できる。



4. 認証取得のメリット

1) RTS の管理が実証されている組織として、社会から認知される。

2) 組織内での RTS 活動がシステムチックになり、管理のレベルが向上する。

3) 経済的利益（保険料・治療費・事故処理費の減少と受注の増加）の確保への貢献が期待できる。

一般財団法人 日本自動車研究所 認証センター

【問合せ先：事業部 TEL (03-5733-7934)、E-Mail (rb-office@jari.or.jp)】